



最初にお読みください

CentreCOM® 8948XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.L）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.9.2-00

2 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.9.1-21 から 2.9.2-00 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 MAC ベース認証を複数のポート（ α 、 β ）で設定し、別のスイッチを経由して α へ接続された Supplicant を β へ移動させて認証させた際（ α でリンクダウンが発生しないケース）、 α に登録された Supplicant の情報が削除されず、MAC ベース認証の再認証動作が繰り返されていましたが、これを修正しました。
- 2.2 DHCP クライアント機能使用時、DHCP サーバーから新しい DNS サーバーアドレスを通知されても DNS サーバーリストを更新せず、以前に通知された DNS サーバーアドレスを使い続けていましたが、これを修正しました。
- 2.3 RIP 使用時、スタティック経路が削除されても該当経路をメトリック 16 で通知しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 2.4 RIP 使用時、インターフェースがリンクアップしてもトリガーアップデートを送信しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 2.5 RIP 機能において、複数に分割された RIP response パケットを正常に受信することができず、最初の 1 パケットのみしか受信することができませんでしたが、これを修正しました。
- 2.6 OSPF ルーターとして動作する場合、LSA を作成、通知を行った後、同じ LSA を再度通知することによって、一時的な LSA の不一致が発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.7 MLD Snooping 有効時、下記の条件を満たす IPv6 パケットがスイッチングされませんでしたでしたが、これを修正しました。
 - ・ IPv6 ヘッダー内の Next Header = 0x00 (Hop-by-Hop Options)
 - ・ Hop-by-Hop Options ヘッダー内の Next Header = 0x3a (ICMPv6)

- 2.8 DHCP レンジの範囲外にある IP インターフェースで DHCP Discover メッセージを受信したとき、dhcpRangeExhaustedTrap トラップ (プライベート MIB) を送信していましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.9.2-00** には、以下の制限事項があります。

3.1 RADIUS

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**

- 複数の IP インターフェース (IP アドレス) を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時 (ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時) に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェースを指定してください。
- RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

3.2 ログ

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。

3.3 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- プライベート MIB の fanAndPsPsuPresent において、電源ユニットが装着されていないという状態を正しく表現できません。Bay 1 (PSU1) 側に電源ユニットが装着されていない場合、本製品は値を返しません。
- ポートトランキングを使用しているとき、SHOW INTERFACE コマンドに COUNTERS パラメーターを指定して実行すると、トランクグループのカウンター値が 0 のまま増加しません。SHOW INTERFACE コマンドの INTERFACE パラメーターにトランクグループ名を指定して実行すると、正しいカウンター値が表示されるようになります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthPaeState において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ authenticated(5) になるべき MIB の値が、authenticating(6) になります。
 - ・ held(7) になるべき MIB の値が、aborting(6) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=5 CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(8) または forceUnauth(9) にならず、initialise(1) になります。

- プライベート MIB の `atrMacBasedAuthControlledPortStatus` において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ 認証を行っていないにもかかわらず MIB の値が `unauthorised(2)` にならず、`authorised(1)` になります。
 - ・ `SET PORTAUTH PORT` コマンドで「`SET PORTAUTH=MACBASED PORT=xx CONTROL=AUTHORISED!UNAUTHORISED`」を設定しても、MIB の値が `forceAuth(10)` または `forceUnauth(12)` にならず、`never(1)` になりません。
- LC コネクタを持つ SFP ポートの `ifJackType` (ポート形状を示す変数。MAU MIB) が正しくありません (「`fiberSC`」となります)。
- プライベート MIB の `restart` の値を `Get Next Request` では取得できません。`Get Request` ならば取得できます。

3.4 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

`SET NTP UTCOFFSET=NONE` を実行した後、設定を保存して再起動すると、起動時に「`Invalid zone or time for UTC offset.`」というエラーメッセージが表示されます。タイムゾーンをデフォルト値に戻す場合は、`SET NTP UTCOFFSET=UTC` (または `GMT`) のように指定してください。

3.5 TELNET コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

3.6 BPDU フォワーディング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

BPDU フォワーディング有効時、受信した BPDU に 4 Byte のデータを付加して転送します。

3.7 ポートトランキンク

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

コマンドの入力順によっては、トランクグループ内にタグなしポートとタグ付きポートの両方を所属させてもエラーになりません。これを回避するため、トランクグループの作成は (1) メンバーポートのタグ設定、(2) トランクグループの作成、の順に行ってください。

3.8 LACP (IEEE 802.3ad)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE 802.3ad)」

LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して `CREATE SWITCH TRUNK` コマンドを実行すると、通信ができなくなります。

3.9 タグ VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

すべてのポートをメンバーとするタグ VLAN を大量に作成し、各 VLAN に IP アドレスを割り当てている場合、いずれかのポートがリンクダウンすると一時的にコンソールの反応が悪くなります。

3.10 スパニングツリープロトコル (STP/RSTP)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリー (STP/RSTP)」

スパニングツリープロトコル (STP) 有効時、スイッチポートがリンクダウンしても STP のポート状態が Forwarding のまま変化しません。このため、スパニングツリーの再構成にかかる時間が最大エージタイム (MaxAge) の分だけ長くなります。

3.11 マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「マルチプルスパニングツリープロトコル」

- マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP) の使用時、ワイヤーレートの通信が行われていると、Topology Change が発生することがあります。
- VRRP と MSTP の併用時、エッジポートでないポートに対して EDGEPORT=YES (SET MSTP CIST PORT コマンド) の設定を行うと、切り戻し時に VRRP が正しく動作しない場合があります。これを回避するため、エッジポートでないポートには EDGEPORT=YES の設定を行わないようにしてください。

3.12 イーサネットリングプロテクション (EPSR)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「イーサネットリングプロテクション」

複数の EPSR ドメインを設定している場合でも、SNMP では直前に変更のあった 1 つの EPSR ドメインに関する情報が取得できません。

3.13 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

- ルーティングパケットと本体 (CPU) 宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース (FDB) のスタティックエントリーが機能しません。
- フィルタリング対象の MAC アドレスを持つ機器が、PORT パラメーターで指定したのとは異なるポートに接続されている場合、本製品から該当 MAC アドレスに宛てたパケットに対して、ACTION=DISCARD のスタティックエントリー (スイッチフィルター) が正しく機能しません。

3.14 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

- MAXBURSTSIZE と MINBURSTSIZE を 0 に設定した場合、メータリングが正しく動作しません。

- IPv6 QoS ポリシー用のクラシファイアにおいて、MACSADDR パラメーターが動作しません。

3.15 ハードウェアパケットフィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

ハードウェアパケットフィルターとダブルタグ VLAN (Nested VLAN) の併用時、カスタマーポートで受信したパケットに対して、CREATE/SET CLASSIFIER コマンドの INNERVLANID、INNERVLANPRIORITY、INNERPID パラメーターが機能しません (ADD SWITCH HWFILTER コマンドの ACTION パラメーターで DISCARD を指定しても破棄されません)。

3.16 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで $\text{TIMEOUT} \times (\text{RETRANSMITCOUNT} + 1)$ の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- RADIUS サーバーによってダイナミック VLAN を割り当てられた Supplicant がリンクダウン、ログオフなどで存在しなくなった場合、プライベート MIB の AuthPreAuthVlan、AuthPostAuthVlan が不正な値を返します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Supplicant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- MAC ベース認証において再認証に失敗しても、プライベート MIB の atrMacBasedAuthUnauthenticated トラップが送信されません。

3.17 ディレクティブブロードキャストパケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

特定 VLAN に対するディレクティブブロードキャスト転送をオンにしている場合、ブロードキャスト MAC アドレス (FF-FF-FF-FF- FF-FF) 宛てのディレクティブブロードキャストパケットを (別 VLAN で) 受信すると、それ以降、本体 MAC アドレス宛てに送信された通常のディレクティブブロードキャストパケットを転送できなくなります。

3.18 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) にブロードキャストアドレスを指定してもエラーになりません。ローカル IP インターフェースに IP アドレスを割り当てるときは、割り当てようとしている IP アドレスがご使用のネットワークにおいて利用可能なものであるかどうかを確認してください。

3.19 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC1 パラメーターに値を指定し、METRIC2 パラメーターには値を指定しない場合、METRIC2 パラメーターに省略時の 1 が設定されず、METRIC1 パラメーターで指定した値が設定されます。

3.20 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- SET OSPF コマンドで DEFROUTE=OFF を指定しても、デフォルトルートの AS 外部 LSA を生成します (DEFROUTE=OFF が機能しません)。
- 隣接ルーターとの通信状態が「Attempt」(静的設定された隣接ルーターとの通信を試行中) であっても OSPF Hello パケットを送信しません。
- ADD/SET OSPF REDISTRIBUTE コマンドで SUBNET=OFF を指定しても、クラスフル、クラスレス両方の経路を取り込みます (SUBNET=OFF が機能しません)。

3.21 DNS キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

3.22 IP マルチキャストルーティング全般 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」

IP マルチキャストルーティング機能 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM) の有効時、多くのグループ (1000 グループ程度) に宛てたマルチキャストストリームを同時に送受信すると、CPU 使用率が 100% 近くになり、コンソールの反応が一時的に低下するなどの現象が発生することがあります。

3.23 DVMRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

3.24 PIM-DM/PIM-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- (PIM-DM) Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッシュすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください (デフォルトは 210 秒。11 ページの「4.24 PIM-DM/PIM-SM」もご参照ください)。

- (PIM-DM) Prune 中に上流ルーターの Generation ID が変更されても Prune メッセージを再送せず、結果として、次の Prune メッセージを送信するタイミングまで不要なマルチキャストトラフィックを受信してしまいます。
- (PIM-SM) すべてのポートがリンクダウンしている状態で ADD PIM BSRCANDIDATE コマンドを実行すると、警告メッセージが表示されます。

3.25 IGMP

 **参照**「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

3.26 IGMP Snooping

 **参照**「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

SET IGMP Snooping ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

3.27 VRRP

 **参照**「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

 **参照**「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

ポートセキュリティーと VRRP を併用する環境において、マスタールーターから受け取った VRRP パケットのバーチャル MAC アドレスがバックアップルーター側で重複して登録されることがあります。この現象は、バックアップルーターがいったんマスターに移行し、その後バックアップに戻った場合に発生します。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書とコマンドリファレンスの補足事項および誤記訂正です。

4.1 FAULT LED の 3 回点滅

 **参照**「取扱説明書」 27 ページ「ステータス LED」

取扱説明書には記載がありませんが、FAULT LED (赤) の 3 回点滅 (3 回の速い点滅と約 1 秒間の消灯時間) は、「本製品内部のファン、あるいは、内部温度の取得に失敗した」ことを示しています。

4.2 SET OSPF コマンド

 **参照**「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

コマンドリファレンスに記載のパラメーターの説明について、以下のように訂正してお詫びします。

SET OSPF コマンド DEFROUTE パラメーター

【誤】 DEFROUTE: デフォルトルート (0.0.0.0) の AS 外部 LSA を生成し、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF

[正] DEFROUTE: ASBR に手動でデフォルトルートを設定していない場合に、ASBR をデフォルトルート (0.0.0.0) とした AS 外部 LSA を ASBR 自身に生成させ、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF

4.3 HTTP サーバー (サポート対象外)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

4.4 コンパクトフラッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

コンパクトフラッシュ (CF) 上のファイルを起動時設定ファイルに指定することはできません。

4.5 弊社 CentreNET SwimRadius 使用時の注意

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

本製品自身 (コマンドラインインターフェース) へのログイン認証に弊社 CentreNET SwimRadius を使用する場合は、以下の点にご注意ください。

- SwimRadius は、Telnet で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept (認証成功) を返すとき、Service-Type 属性を付加しますが、同属性の値としてはつねに Administrative(6) をセットするため、SwimRadius によって認証された Telnet ユーザーは、つねに Security Officer レベルでログインすることとなります。
- SwimRadius は、コンソールポート経由で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept (認証成功) を返すときは Service-Type 属性を付加しません。本製品は Service-Type 属性のない Access-Accept を受信した場合は該当ユーザーのログインを許可しないため、コンソールポート経由のログイン認証を SwimRadius で行うことはできません。

4.6 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア (ファイル名とバージョンが同じもの) を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

4.7 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

4.8 ユーザープライオリティー 6～7 のブロードキャスト転送レート

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#)

ユーザープライオリティー (802.1p) 6～7 を持つブロードキャストパケットの転送レートは約 50% です。

4.9 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#)

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

4.10 拡張モジュール AT-MG8T

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

拡張モジュール AT-MG8T は 1000Mbps 通信のみのサポートとなります。コマンドで設定可能な通信モードは AUTONEGOTIATE のみです。

4.11 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「QoS」](#)

送信ポートの帯域制限機能 (EGRESSLIMIT) と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング (WRR) は併用できません。

4.12 ポートトランキンク

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。

4.13 マルチプル VLAN (Private VLAN)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「バーチャル LAN」](#)

マルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートでは、ARP パケットの処理が行えないため、DHCP、SNMP、Telnet、IP ルーティングなど、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

4.14 MAC アドレス登録数

 [「取扱説明書」](#) 143 ページ [「本製品の仕様」](#)

取扱説明書には、MAC アドレス登録数が「15K (最大)」と記載されていますが、正しくは「16K (最大)」です。

4.15 クラシファイアの割り当てについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「クラシファイア」](#)

1つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルターとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルターに割り当てたクラシファイアしか機能しません。

4.16 QoS

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「QoS」](#)

高速なポートの配下から低速なポートの配下に Ping を実行した場合、フラグメント化されたパケットをロスする場合があります。そのようなときは、次のコマンドを実行して、Tail-drop 時の最大キュー長を大きくしてください（デフォルトは 30KByte）。

```
SET QOS RED=1 STOP1=100k
```

4.17 ハードウェアパケットフィルター

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ハードウェアパケットフィルター」](#)

- CREATE CLASSIFIER コマンドで「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。
- ハードウェアパケットフィルターのアクションに SETL2QOS を指定すると、IP TOS 値が 0 に書き換えられます。

4.18 IP 統計情報

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#)

本製品では、IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

4.19 ICMP メッセージ

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#)

本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

4.20 ADD IP ROUTE コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御」](#)

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC を指定すると、METRIC 値は METRIC1 として設定されてしまいますが、動作に影響はありません。

4.21 BGP-4

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP」](#) / [「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAXPREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただち

にセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

4.22 ルーター通知 (RA)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6」](#) / [「近隣探索」](#)

システム再起動により IPv6 インターフェースがダウンした場合は、Lifetime=0 のルーター通知 (RA) パケットを送信しません。

4.23 DVMRP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「DVMRP」](#)

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目) には対応していません。

4.24 PIM-DM/PIM-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
CREATE CLASS=1 IPPROTOCOL=103
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS PRIORITY=7
```

4.25 PIM6-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6 マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM6 パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM6 パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
SET SWITCH CPUTXPRIO=7
SET SWITCH CPUTXQUEUE=7
CREATE CLASS=1 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-UNTAGGED PROT=86dd
CREATE CLASS=2 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-TAGGED PROT=86dd
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
ADD SWITCH HWF CLASS=2 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
```

5 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

○ 以下のキーワードを含む全コマンド

ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLETALK, BRI, CLNS, DHCP6, ETH, FIREWALL, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPSEC, IPX, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LLDP, LOADBALANCER, LB, MACFF, MIOX, PKI, PPP, PPPOE, Q931, RSVP, SA, SERVICE, SKEY, SSL, STACK, STAR, STARTUP, STREAM, STT, SYN, TACACS, TACPLUS, TEST, TPAD, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

○ 以下のコマンド (パラメーター)

COPY/DUMP/MODIFY
SET/START/STOP PKT
SHOW BUFFER [SCAN[=ADDRESS] [QUEUEPOINTERS]]
SHOW SYSTEM TEMPERATURE
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]
TRACE [ADDRONLY]
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]
[SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE
PURGE PING TOTALLY
DISABLE/ENABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG
SET/SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [JUMBO] [SPEED={xxxMHAUTO ; xxxMFAUTO}]
DISABLE/ENABLE SWITCH BIST
SET VLAN VIRTACTIVATION
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP ROUTE FILTER [POLICY]
ADD/DELETE/DISABLE/ENABLE/SET/SHOW IP EGP
ADD/DELETE/DISABLE/ENABLE/SHOW IP HELPER
ADD/DELETE/SET/SHOW IP SA
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER]
[PRIORITYFILTER] [MULTICAST] [IGMPPROXY]
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL
DISABLE/ENABLE/SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
DISABLE/ENABLE IP FOFILTER
DISABLE/ENABLE IP MULTICASTSWITCHING

```
DISABLE/ENABLE IP SRCROUTE
ADD IP ROUTEMAP [MATCH TAG]
ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP;DHCPTEMP;PD} [APPINT] [HINT]
[KEY] [FILTER] [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]
ADD/DELETE/SET/SHOW IPV6 FILTER
SHOW IPV6 MULTICAST
DISABLE/ENABLE IPV6 FLOW
ADD/SET PIM6 INTERFACE [MODE=DENSE] [SRCAPABLE]
SET PIM6 [SOURCEALIVETIME] [SRINTERVAL]
SHOW PIM6 [STATEREFFRESH]
ADD/DELETE/SET DVMRP [DLC]
ADD/DELETE/SET DVMRP INTERFACE [DLC]
DISABLE/ENABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES ; HMAC ; JOBPROCESSING ; PRED ; STAC ;
USER ; UTIL}
DISABLE/ENABLE QOS DEBUG
ADD/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE] [DLC]
DELETE PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFFRESH]
ADD/SET PIM BSRCANDIDATE [HASHMASKLENGTH]
SET BOOTP MAXHOPS
DISABLE/ENABLE DHCP [BOOTP]
DISABLE/ENABLE DHCPSPNOOPING STRICTUNICAST
ADD/DELETE DHCPSPNOOPING BINDING [ROUTER]
ADD/DELETE/ENABLE/SHOW DHCPSPNOOPING XLA
DISABLE/ENABLE DHCPSPNOOPING IPFILTERING
ADD/SET OSPF AREA [NSSATRANSLATOR] [NSSASTABILITY]
DISABLE/ENABLE MSTP CIST PORT
DISABLE/ENABLE MSTP DEBUG MSTI
DISABLE/ENABLE MSTP MSTI PORT
SHOW MSTP DEBUG MSTI
ADD/DELETE IGMPSPNOOPING VLAN ROUTERPORT
SET IGMPSPNOOPING VLAN QUERYSOLICIT
```

6 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.L）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>